

2019年度

I Tエンジニア科 4年制 講義計画集

— 第2学年 —

氏名

.....
船橋情報ビジネス専門学校

〒273-0005 船橋市本町7-12-16

電話:047-425-1051
.....

2019年度（平成31年度）年間計画表

後 期																											
前 期							後 期																				
4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月					
1 月	始業式・ガイダンス	1 水	天皇の即位の日	1 土	月12回	1 月	月12回	1 木		1 日		1 火	火4回	1 金	金8回 ひろえは船橋	1 日	B検シヨブハス	1 水	元日	1 土	1 日		1 日				
2 火		2 木	国民の休日	2 日	火12回	2 火	火12回	2 金		2 月		2 水	水4回	2 土	ひろえは船橋	2 月	月9回	2 木		2 日		2 月					
3 水		3 金	憲法記念日	3 月	水11回	3 水	水11回	3 土		3 火		3 木	木4回	3 日	文化の日	3 火	火11回	3 金		3 月	月15回	3 火					
4 木		4 土	みどりの日	4 火	木12回	4 木	木12回	4 日		4 水	部 合動 同 音	4 金	金4回	4 月	振替休日	4 水	水12回	4 土		4 火	後 火16回 期 試	4 水					
5 金		5 日	こどもの日	5 水	金12回	5 金	金12回	5 月		5 木	同 音	5 土	土5回	5 火	火7回	5 木	木13回	5 日		5 火	水17回 期 試	5 水					
6 土		6 月	振替休日	6 木	木8回	6 土	木8回	6 火	オープンキヤハス	6 金	音 同	6 日	日6回	6 水	水8回	6 土	土13回	6 月		6 火	木17回 期 試	6 木					
7 日		7 火	火4回	7 金	B検シヨブハス	7 日	B検シヨブハス	7 水		7 土		7 木	月3回	7 火	木9回	7 土	土9回	7 日		7 金	追 試	7 土					
8 月	前期スタート 月1回	8 水	月曜振替4回	8 土	月13回	8 月	月13回	8 木		8 日		8 火	火5回	8 金	金9回 ひろえは船橋予備	8 土	土8回	8 日	水14回	8 土	8 日	8 日					
9 火	火1回	9 木	木4回	9 日	火13回	9 火	火13回	9 金		9 月	後 期 ス タ ー ト 月 1 回	9 水	水5回	9 土	土9回	9 月	月10回	9 日	月曜振替11回	9 日	9 月						
10 水	水1回	10 金	金4回	10 月	水12回	10 水	水12回	10 土		10 火		10 木	木5回	10 日	日10回	10 火	火12回	10 金	金14回	10 月	10 火						
11 木	木1回	11 土		11 火	木13回	11 木	木13回	11 日	山の日	11 水		11 金	金5回	11 月	月6回	11 木	木13回	11 土		11 火	建 国 記 念 の 日	11 水					
12 金	金1回	12 日		12 水	金13回	12 金	金13回	12 月	振替休日	12 土		12 日	日5回	12 火	火8回	12 土	土12回	12 日		12 火		12 木					
13 土		13 月	月5回	13 土		13 月		13 火	受 付 業 務 停 止	13 日		13 土	土9回	13 水	水9回	13 日	日9回	13 月	成人の日	13 土		13 金	終 業 式				
14 日		14 火	火5回	14 日	日14回	14 日		14 水		14 土		14 日	日5回	14 月	月10回	14 土	土14回	14 火	火13回	14 日	卒 業 研 究 発 表 会	14 土					
15 月	月2回	15 水	水4回	15 土	土15回	15 月	海の日	15 火		15 日		15 火	火6回	15 金	金10回	15 日	日15回	15 月	月曜振替12回	15 土	15 日						
16 火	火2回	16 木	木5回	16 日	日14回	16 火	火14回	16 金		16 土		16 水	水6回	16 日	日16回	16 月	月14回	16 火	火14回	16 日	16 月						
17 水	水2回	17 金	金5回	17 月	月13回	17 水	水13回	17 土		17 火		17 木	木6回	17 日	日17回	17 月	月15回 漢字検定	17 火	火15回	17 日	17 月						
18 木	木2回	18 土		18 日	日14回	18 木	木14回	18 月		18 水		18 金	金6回	18 土	土18回	18 日	日18回	18 月	月14回	18 日	18 月						
19 金	金2回	19 日		19 月	月14回	19 金	金14回	19 土		19 火		19 水	水9回	19 日	日19回	19 月	月14回	19 火	火14回	19 日	19 月						
20 土		20 月	月6回	20 土	土20回	20 土	土20回	20 日	成績発表	20 金		20 火	火9回	20 月	月10回	20 土	土20回	20 日	日20回	20 月	20 月	20 月	春 分 の 日				
21 日	国家試験	21 火	火6回	21 金	金10回	21 日	日21回	21 月		21 土		21 日	日4回	21 月	月11回	21 日	日21回	21 火	火14回	21 金	在 校 生 成 績 発 表	21 土					
22 月	月3回	22 水	水5回	22 土	土14回	22 月	月14回	22 火		22 日		22 火	火7回	22 金	金11回	22 日	日22回	22 水	水15回	22 土	22 日						
23 火	火3回	23 木	木6回	23 日	日15回	23 火	火15回	23 金	体験入学	23 月	秋 分 の 日	23 水	水7回	23 土	土23回	23 日	日23回	23 木	木15回	23 金	23 月	23 月					
24 水	水3回	24 金	金6回	24 月	月14回	24 水	水14回	24 土		24 火		24 木	木7回	24 日	日24回	24 月	月14回	24 火	火16回	24 土	24 月	振 替 休 日					
25 木	木3回	25 土	土5回	25 日	日15回	25 火	火15回	25 月		25 水		25 木	木7回	25 金	金8回	25 日	日25回	25 火	火16回	25 土	25 火	25 水					
26 金	金3回	26 日		26 月	月15回	26 水	水15回	26 土	前 期 試 験	26 火		26 木	木7回	26 日	日26回	26 月	月15回	26 火	火16回	26 土	26 木	26 木					
27 土		27 月	月7回	27 日	日16回	27 火	火16回	27 月	再 試 発 表	27 金		27 土	土9回	27 日	日27回	27 月	月11回	27 火	火17回	27 土	27 金	27 金					
28 日		28 火	火7回	28 日	日16回	28 水	水16回	28 火		28 土		28 日	日9回	28 月	月12回	28 日	日28回	28 火	火18回	28 土	28 土	再 試 発 表					
29 月	昭和の日	29 水	水6回	29 土	土15回	29 火	火15回	29 月		29 日		29 火	火9回	29 金	金12回	29 日	日29回	29 水	水18回	29 土	29 日						
30 火	国民の休日	30 木	木7回	30 日	日16回	30 火	火16回	30 月		30 土		30 水	水5回	30 日	日30回	30 月	月2回	30 火	火19回	30 土	30 月						
		31 金	金7回		追 試	31 土	土31回	31 日				31 木	木8回		31 土	土31回	31 日	日31回	31 火	火17回		31 火					
														※年間講義回数 月 30回 火 31回 水 32回 木 32回 金 32回													
														※台風など臨時休校が多い時は12月3週で対応													
														※30日 月曜振替													
														※9日は全教職員研修参加のため学校閉館													
														※30日 水曜振替													
														※8日 月曜振替													

ITエンジニア科4年制2学年

本校の教育方針	1
評価について／出欠席ルール	3
FJBネットID登録とメールアドレス	4
実習室・インターネット使用上のルール・マナー	4
個人情報保護に関する基本方針	5
平成30年度教育目標と検定スケジュール	6
シスコネットワークキング演習Ⅰ・Ⅱ	森田 秀明 7
シスコネットワークキング演習Ⅱ(CCNP)	村上 建夫 9
ネットワーク構築演習Ⅰ・Ⅱ	野本 修平 10
オブジェクト指向プログラミング演習	川島 慧 12
サーバサイドプログラミング演習	川島 慧 13
Web技術演習Ⅰ・Ⅱ	橘 純平 14
検定対策応用Ⅰ・Ⅱ	野本 修平 16
情報セキュリティ応用Ⅰ・Ⅱ	森田 秀明 18
Office総合演習Ⅰ・Ⅱ	佐藤 薫 20
マルチメディア基礎Ⅰ・Ⅱ	正木 義男 22
就職講座B応用	花田 秀宣 24
キャリアデザイン	野本 修平 25
やってみなはれ演習応用Ⅰ・Ⅱ	野本 修平 26

本校の教育方針

船橋情報ビジネス専門学校
校長 鳥居高之

教育理念「若者をハッピーに」

これが本校の教育理念です。しかし幸せの形は人によって違いますし、卒業式で「はいどうぞ」と手渡しできるものではありません。在学中だけハッピーならよい訳でもありません。その後こそ重要です。従って私たち教職員の使命とは、学生のみなさんが職業人・社会人として豊かな人生を送るために、その土台作りのお手伝いをするという事になります。あくまでも主役は学生本人です。また社会に出てハッピーになる最低条件としては、大人として自立していなければなりません。その自立に欠かせないのが自律です。自律とは自分と闘うということです。ただ欲望や本能のままに行動するなら動物と同じです。すなわち、「自律 → 自立 → ハッピー」という順番です。私達もみなさんのお手伝いに全力を尽くしますが、自立した大人になる独力を忘れないでください。

勉強は教わるものではない

初年度のみ先生方は手取り足取り親切に教えてくれます。高校までに自分なりの勉強方法が身に付いていない人もいますからです。しかし2年目からは最後まで教えません。「まずは自分で考えてみなさい」と指導します。なぜでしょうか。将来みなさんが就職する会社に、そんな面倒見のよい上司や先輩がいるでしょうか。みな仕事を抱えています。社会に出れば自分で勉強するのが当たり前です。質問・相談もできますが、自分で調べて考えるのが大原則です。その姿勢を在学中に身に付けてください。2年生になって先生の態度が変わるのはそのためです。急に厳しくなったと勘違いする学生がいますが、みなさんの真の成長を望んでいるのだということに気付いて欲しいです。

またスピード制限もしていません。もし授業の内容を既に理解していると感じる人は申し出てください。指導教員がそう判断すれば別メニューを設定します。クラス全体に歩調を合わせる必要はありません。どんどん前に進んでください！

人間教育の重視

人と接するのが苦手だからコンピュータの仕事に就きたいという学生がいます。大きな勘違いです。コンピュータの向こうには生身の人間がいます。どんなビジネスでも主役は人です。技術や資格ではなく人が仕事をするのです。そして人は一人では生きて行けない生き物です。仕事にせよ日常生活にせよ、常に他者との係わりの中で生きています。本校は単なる就職予備校ではないのです。人間教育を技術教育以上に重視しています。特に次の2つを心がけて欲しいです。

元気に明るく挨拶（あいさつ）

明るい人はみんなに好かれます。明るさの第一歩は、自分から元気に挨拶することです。そのような新入社員は職場でも愛されます。学校の先生方や来校されるお客様に練習台になっていただき、どんどん自分から挨拶しましょう。

3つの守り

本校がとても大切にしている3つの守りとは、「時間を守る、約束を守る、ルールを守る」です。単純ですが、当たり前のことを当たり前にやるのは実は大変なことです。自律できない人は自分と闘えません。つまり自立もできません。

「ルールを守る」に関しては考えて欲しいことがあります。学校生活だけでなく今後の生き方にも係わることです。ルールや法律を守るのは、叱られない罰せられないためでしょうか。世の中を見渡すと、法に触れなければいい、見つからなければいい、と考える者もいます。真の大人になり損ねた、自己中心のニセ大人です。みなさんには、「そんなことをしたら人として、大人として恥ずかしい」と自分を律して行動できる、良識ある職業人・社会人になって欲しいと願っています。以下校内のルールやマナーについて、少し補足しておきます。

通学

- (1) バイク・自動車通学全面禁止。
- (2) 自転車は学生課に登録し所定の駐輪場所を利用。

エレベーター

- (1) 学生はドアの注意書きに従うこと。下りは全面禁止。
- (2) 授業開始前および終了後の5分間は使用禁止。(教員優先)
- (3) 3号館は全面使用禁止。

禁煙

教職員、学生、成年、未成年者にかかわらず校内及び天沼公園・学校周辺は全面禁煙。

※船橋駅前から本校までの路上喫煙は条例により禁止され罰金の対象です

交通ルール

3号館前的大通りは横断絶対禁止。過去に死亡事故あり。横断歩道を使うこと。

重大なルール違反やマナー違反をした場合は、校長面接の上、停学や退学処分になることもありますので、学生の本分を守り勉学や学校生活に励んでください。なお本校では、学生が直接メールを校長宛に出すことができます。何か要望や相談があれば、いつでもメールしてください。 takatorii@chiba-fjb.ac.jp

以上

評価について

- (1) 評価とは成績証明書にA～Dで表現され記載される、その科目の最終的な成績のことを指す。
- (2) 評価は、合計点を用いて算出する。合計点とは、定期試験の素点に授業態度や出席状況、課題提出等の平常点を合計して算出したものである。

評価は以下の基準を用いる。(点または%)

A	80以上
B	50～79
C	40～49
D	39以下

- (3) 評価Dの者は、単位未修得者として処理される。
- (4) 評価Dの者には所定の手続きの後、再試験を実施する。ただし、再試験は特別の場合を除き、レポートに代替する。再試験に合格した場合その科目の評価はCとする。(特別な努力が認められたものは、B評価になることもある。)

出欠席ルール

- (1) 遅刻3回で欠課1回、欠課6回(1年生はSHR分の遅刻1回を含む)で1日の欠席とみなし、次の条件で換算する
 - ・SHRの遅刻及び欠席で「遅刻1」※SHRは1年生のみ
 - ・授業開始15分までの入室で「遅刻1」
 - ・授業開始15～45分までの入室で「欠課1」
 - ・授業開始45～60分までの入室で「欠課1+遅刻1」※90分授業の前半45分の欠課1、後半15分までの遅刻1という考え方でカウントする
 - ・授業開始60分以降の入室で「欠課2」
- (2) 年間55日の欠席で進級停止、退学勧告。
- (3) 交通機関の乱れによる遅刻の場合は「遅延証明をもらう」。ただしバスは適用外。

レベル	欠席日数	学校側からのアクション	備考
1	無断欠席	担任が自宅へ電話する	
2	累積10日欠席	自宅へ警告書を郵送する	警告書の郵送は累積10日になった時点で行う。
3	累積25日欠席	校長面接を行う	警告書の郵送は累積25日になった時点で行う。
4	累積40日欠席	校長面接において「退学警告」を行う	保護者同伴で行う。
5	累積50日欠席	校長面接において「最終警告」を行う	同上
6	累積55日欠席	①自宅へ退学勧告通知書を郵送する ②掲示板に名前を張り出す	退学を勧告する。

※「退学勧告」とは・・・1ヶ月以内に退学届けを提出すれば「自主退学」扱いとなります。以後は「強制退学処分」とします。

FJBネットID登録とメールアドレス

1. ユーザID登録について

本校では、学生1人ひとりにユーザIDを発行しております。このIDでログインすると、学校内のネットワーク環境が利用できます。課題の保存、教材の受け渡し、メールでのコミュニケーションなどに活用して下さい。

2. メールアドレスについて

(1) 科によってメールアドレスが設定されています。

詳細は担任から説明があります。

(2) 「FJBインターネット&イントラネット」画面の「電子メール」「先生へのメール」をクリックして電子メールを活用して下さい。

(3) Webメールでの各個人に与えられている容量は50MBまでです。整理せずに企業からの大切なメールを受理できないケースがありました。不必要なメールはこまめに消去してください。

3. 緊急連絡網について

クラスの諸連絡、台風や大雪の休校連絡等で使用します。各自、常に最新の連絡先を更新するようにしてください。登録されたアドレスに連絡がつかない場合、自己責任となります。また、メール連絡の環境に無い場合は担任へ申し出てください。

実習室・インターネット使用上のルール・マナー

1. 実習室の放課後開放について

放課後、午後6時まで実習室を開放します。開放時間中に清掃（清掃時間を入り口に掲示）が入ります。その際は一度退出をお願いします。気持ちよく使えるよう、ご協力ください。

2. 実習室に、飲食物は持ち込んではいけません

パソコンは精密な電子機械です。水、粘着質の糖分、細かなゴミ、小さな金属物などを嫌います。実習室では、飲食行為も持ち込みも、厳禁です。

3. 本校のパソコンに、ゲーム（その他ソフト）をインストールしてはいけません

雑誌の付録のCD-ROMを持ち込んだり、インターネットでダウンロードしたりして、ゲームなどのソフトを本校のパソコンにインストールしてはいけません。

4. USBなどの記憶媒体は必ずウイルスチェックをするようにして下さい

記憶媒体を本校で使用する場合は、監督の先生に申し出てウイルスチェックをしてもらって下さい。その後、許可します。

5. 実習ファイルを保存するための領域をIドライブに用意してあります

必要なファイルのみ保存し、常に整理を心がけてください。ゲームファイル、過度な容量のファイルの保存を禁止します。（卒業研究等、必要な場合を除く）

6. インターネットを利用して、画像、音楽などを不正使用してはいけません

画像・音楽データなどはすべて、著作権があります。さらに、人物の写真には肖像権、アイドルの写真にはパブリシティ権があります。個人的な利用の範囲を超えて、使用してはいけません。HPやブログに貼り付けることはこれらの権利の侵害で、犯罪行為です。

7. インターネットに、非常識な書き込みをしてはいけません

インターネットの世界は、限られた若者のギャグやチャレの場ではありません。善意ある人達の、世界的に開かれた場です。匿名性を利用した破廉恥な書き込みは、卑怯者の行為です。一見匿名ですが、アクセス記録は残りますから、必ず追跡されます。

以上の約束が守れない場合は、指導の対象となります。

また、悪質な場合は、停学・退学を含めた処置を検討します。

学校法人三橋学園 船橋情報ビジネス専門学校
個人情報保護に関する基本方針（プライバシーポリシー）

船橋情報ビジネス専門学校

船橋情報ビジネス専門学校は、教育機関としての社会的責任を果たすために、以下の個人情報保護方針(プライバシーポリシー)を定め、教職員およびその他の関係者に周知徹底し、これを実行します。

1. 個人情報の取り扱いについては、教育上または業務上必要な範囲内において利用目的をできるだけ特定した上で、権限を与えられた者のみに許可します。
2. 個人情報に対する不正アクセス、紛失、破壊、改ざんおよび漏えい等を防止するために、適切な安全対策を講じます。
3. 取得した個人情報は、以下の目的に利用します。
 - (1) 本校の授業、検定試験、行事等の通知・連絡・管理を行うため
 - (2) 就職指導および就職活動支援を行うため
 - (3) 入学相談および募集活動を行うため
 - (4) 入学選考試験業務を行うため
 - (5) 各種証明書等の発行業務を行うため
 - (6) 上記のほか、教育上必要と判断される業務や活動を行うため
4. 本校は以下のような場合において、必要とされる範囲内で個人情報を関係者または第三者に提供もしくは公開することがあります。
 - (1) 在学生の保護者に対し、本人の学業成績、出欠席状況、資格取得状況等の提供
 - (2) 在学生もしくは卒業生の出身校に対し、本人の出欠席状況、資格取得状況、就職状況等の提供
 - (3) 学内での定期試験合格者、資格取得者、就職内定者情報等の公開
 - (4) 就職指導室における、在学生もしくは卒業生の就職先、就職活動記録等の公開
 - (5) 本校への入学希望者に対する、在学生もしくは卒業生の就職または就職内定先情報および、学校案内や本校ホームページに記載されている情報等の提供
 - (6) 上記のほか、本校の教育上もしくは業務上必要と判断される場合
5. 上記以外の利用目的で個人情報を収集する場合は、別途本人および保護者に通知します。
6. 以上のように、本校による関係者および第三者への個人情報の提供は、教育上もしくは業務上必要であると判断した上で行っておりますが、希望しない場合は所定の手続による請求をすることで停止できます。

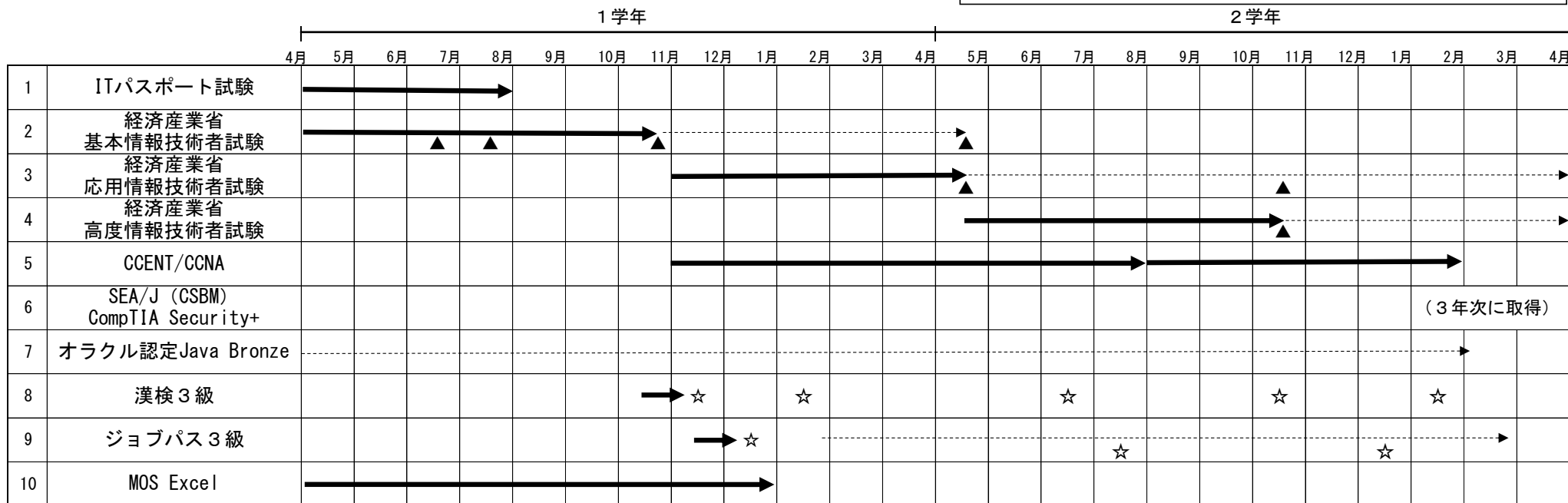
個人情報の開示、訂正、利用停止の請求および取り扱いに対する問い合わせは下記までお願いします。

校長 鳥居 高之
047-425-1051
takatorii@chiba-fjb.ac.jp

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・システム開発技術、ネットワーク技術、サーバ構築技術の習得 ・経済産業省認定情報処理技術者試験、シスコ技術者認定試験の取得 ・システム構築に必要な論理的思考能力の向上
目標資格	<ul style="list-style-type: none"> ・経済産業省基本情報技術者試験 ・経済産業省応用情報技術者試験 ・CCENT、CCNA ・オラクル認定Javaアソシエイト (Bronze)
1年次進級条件(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・ITパスポート試験 ・MOS Excel
2年次進級条件(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・CCENT
卒業条件(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字検定3級 ・ジョブパス3級

<方針>

- ①企業に役立つ高度な人材及び良き社会人としての成長を目指す
 - ②プログラミング, 設計技法に加え、ネットワーク, セキュリティの知識を習得し、多様な資格取得にチャレンジする
 - ③オブジェクト指向の基礎に留まらず、Webプログラミング技術を習得する
- 1年次:
- ・アルゴリズムの授業に力を入れ、プログラミング力を高める
 - ・基本情報技術者試験の合格を目指す
- 2年次:
- ・シスコ技術者認定合格を目指し、ネットワーク技術を習得する
 - ・自力でプログラムを組める力を身に付ける
- 3年次:
- ・システム開発に取り組み、システムエンジニア・プログラマの実務に意識を高め、就職活動に備える
 - ・知識だけでなく他人と共に働く力や自ら考え行動する力の向上を図る
- 4年次:
- ・卒業研究を通じて、技術力に加え、プレゼンテーション能力を身に付ける



科目	シスコネットワークング演習 I	分類	専門科目
担当	森田 秀明・石神 和也		
テキスト (出版社)	徹底攻略Cisco CCNA/CCENT ICND1編(インプレス) 本校のオリジナルテキスト		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	50%	0%	0%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要		
シスコ・ネットワークングアカデミーのカリキュラムをベースに、ネットワーク技術者(もしくはネットワークインフラに詳しいシステムエンジニア)として必要とされる知識と技能を修得する。		
2. 授業の目標(検定取得など)		
シスコ技術者認定試験(CCENT)の合格		
3. 注意点・要望		
基礎をおろそかにすると、後でつらくなります。予習は必要ありませんが、復習をしっかりと行って完璧な状態にして下さい。学科が指定する期日までにCCENTを取得していない場合、後期より開講するCCNA講座に参加することができません。		
4. 関連科目		
ネットワーク構築演習 I		
週	テーマ	内容
1	導入、1年次の復習	CCENT試験合格までのスケジュール 確認テスト①受験に向けた復習
2	1年次の復習	確認テスト①受験に向けた復習
3	Ciscoルータの基本設定	ルータ実習(各種設定コマンド)・Packet Tracerを使用した実習を行う
4	スイッチングテクノロジー Ciscoデバイスの管理(1)	スイッチの動作と基本設定、フレーム転送方式 IOS操作、接続診断ツール、IOSバージョンの表示、show interfaceによるトラブル診断
5	Ciscoデバイスの管理(2)	パスワードによる管理アクセス制御、スイッチのポートセキュリティ、CDP、Telnet debug、IOSのバックアップと再格納、コンフィギュレーションレジスタ、パスワード復旧
6	NTP、スイッチの基本設定 ルーティング(1)	NTPによる時刻同期、スイッチのLED、スイッチの基本設定とアドレステーブル管理 スタティックルート・デフォルトルートの設定
7	ルーティング(1) 高度なアドレッシング	ダイナミックルーティング、パッシブインタフェイス、 アドミニストレーティブディスタンス、ルーティングテーブルの表示、VLSM
8	アクセスコントロールリスト(ACL) DHCP	ACLの概要と動作、ACLの設定コマンド DHCP設定の概要
9	NATとPAT	NAT(静的NAT、動的NAT、PATの設定)
10	VLAN	VLANの概要、VTP
11	IPv6	IPv6の概要とアドレッシング
12	受験対策(1)	CCENT受験に向けて確認テストを進める
13	受験対策(2)	CCENT受験に向けて確認テストを進める
14	受験対策(3)	CCENT受験に向けて確認テストを進める
15	前期試験期間	効果測定
備考	通信キャリアでネットワークエンジニアとして勤務していた教員が、ネットワークシステム提案の経験に基づき、ネットワーク技術について講義する。	

科目	シスコネットワーク演習Ⅱ(CCENT・CCNA)	分類	専門科目
担当	森田 秀明・石神 和也		
テキスト (出版社)	徹底攻略Cisco CCNA/CCENT ICND2編(インプレス)※CCNA 徹底攻略Cisco CCNA/CCENT ICND1編(インプレス)※CCENT、本校のオリジナルテキスト		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

シスコ・ネットワークアカデミーのカリキュラムをベースに、ネットワーク技術者(もしくはネットワークインフラに詳しいシステムエンジニア)として必要とされる知識と技能を修得する。

2. 授業の目標(検定取得など)

(CCNA)シスコ技術者認定試験(CCNA)の取得
(CCENT)シスコ技術者認定試験(CCENT)の取得

3. 注意点・要望

(CCNA)講座の受講条件として、学科が指定する期日までにCCENTに合格していること。

4. 関連科目

ネットワーク構築演習Ⅱ

週	テーマ	内容
1	(CCNA)ルーティングの基礎(VLAN) (CCENT)基礎知識～TCP/IPモデル	(CCNA)ルーティング技術(スタティックルート、RIP等)の復習、VLANの復習と設定コマンド (CCENT)基礎知識～TCP/IPモデルまでの復習
2	(CCNA)ネットワークデバイスの管理(1) (CCENT)確認テスト(1)	(CCNA)Syslog、NetFlow (CCENT)基礎知識～TCP/IPモデルまでの確認テスト
3	(CCNA)ネットワークデバイスの管理(2) (CCENT)ルータのコンポーネント・設定	(CCNA)QOS、Ciscoデバイスの冗長化、ネットワークの仮想化 (CCENT)ルータのコンポーネント・設定までの復習
4	(CCNA)EtherChannel (CCENT)確認テスト(2)	(CCNA)EtherChannel (CCENT)ルータのコンポーネント・設定までの確認テスト
5	(CCNA)STP (CCENT)イーサネット・NTP	(CCNA)STP、RSTPの動作 (CCENT)イーサネット・NTPまでの復習
6	(CCNA)ファーストホップの冗長化 (CCENT)確認テスト(3)	(CCNA)HSRP、VRRP、GLBPの特徴と動作 (CCENT)イーサネット・NTPまでの確認テスト
7	(CCNA)WAN(1) (CCENT)スイッチの導入・PAT	(CCNA)PPP、PPPoE、BGP (CCENT)スイッチの導入・PAT
8	(CCNA)WAN(2) (CCENT)確認テスト(4)	(CCNA)VPN、IPSec、DMVPN (CCENT)スイッチの導入・PATまでの確認テスト
9	(CCNA)EIGRP (CCENT)VLAN・IPv6	(CCNA)EIGRP、EIGRP for IPv6 (CCENT)VLAN・IPv6
10	(CCNA)OSPF (CCENT)確認テスト(5)	(CCNA)OSPFの概要、シングルエリアOSPFを使ったネットワーク構成、OSPFv3 (CCENT)VLAN・IPv6までの確認テスト
11	(CCNA)インフラストラクチャ (CCENT)見極めテストA	(CCNA)IP SLA、IEEE802.1x、AAA、RADIUS、TACACS+、SPAN (CCENT)見極めテストA
12	(CCNA)CCNA受験対策(1) (CCENT)見極めテストB	(CCNA)確認テスト①、② (CCENT)見極めテストB
13	(CCNA)CCNA受験対策(2) (CCENT)CCENT受験対策(1)	(CCNA)確認テスト③、④ (CCENT)CCENT強化復習(1)
14	(CCNA)CCNA受験対策(3) (CCENT)CCENT受験対策(2)	(CCNA)確認テスト⑤、⑥ (CCENT)CCENT強化復習(2)
15	(CCNA)CCNA受験対策(4) (CCENT)CCENT受験対策(3)	(CCNA)見極めA (CCENT)CCENT強化復習(3)
16	(CCNA)CCNA受験対策(5) (CCENT)CCENT受験対策(4)	(CCNA)見極めB (CCENT)CCENT強化復習(4)
17	後期試験期間	-

備考	通信キャリアでネットワークエンジニアとして勤務していた教員が、ネットワークシステム提案の経験に基づき、ネットワーク技術について講義する。
----	--

科目	シスコネットワーク演習Ⅱ(CCNP)	分類	選択科目
担当	村上 建夫		
テキスト (出版社)	徹底攻略 Cisco CCNP ROUTE 教科書(インプレス) 徹底攻略 Cisco CCNP SWITCH 教科書(インプレス)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

シスコ技術者認定資格CCNP Routing & Switchingは、世界が認めるネットワークエンジニアの高度資格である。その資格の3科目試験のうち、ROUTEおよびSWITCHの範囲を学習してネットワークの高度な知識を習得する。

2. 授業の目標(検定取得など)

CCNP Routing & SwitchingのROUTE、およびSWITCHの合格を目指す。

3. 注意点・要望

CCNA認定の有効期限は、3年間です。再認定を受けるには、同等レベルか上位レベル試験の1つに合格しなければなりません。CCNP ROUTE試験またはSWITCH試験の合格は、CCNA再認定や上位のCCNP認定取得への一歩となる。参加条件:CCNA合格

4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	ROUTE EIGRP	認証、実装、ほか
2	ROUTE OSPF	認証、仮想リンク、実装、ほか
3	ROUTE ルート再配布とルート制御	ルータフィルタリング、PBR、ほか
4	ROUTE BGP	BGPアトリビュート、ほか
5	ROUTE IPv6	IPv6の主要なプロトコル、IPv6への移行技術、ほか
6	ROUTE インターネット接続	VPN概要、ほか
7	ROUTE ネットワーク管理	SNMP、ほか
8	ROUTE シミュレーション問題	シミュレーション問題
9	SWITCH キャンパスネットワーク設計	SDM、LLDP、ほか
10	SWITCH キャンパスネットワークアーキテクチャ	VTP、EtherChannel、ほか
11	SWITCH STPの実装	PVRST+、MSTP、ほか
12	SWITCH VLAN間ルーティング	マルチレイヤスイッチ、ほか
13	SWITCH ハイアベイラビリティネットワーク	ポートミラーリングの実装、スイッチの仮想化、ほか
14	SWITCH 冗長プロトコルの実装	HSRP、VRRP、GLBP、ほか
15	SWITCH キャンパスネットワークセキュリティ	AAAの実装、VACL、PVLAN、ほか
16	SWITCH シミュレーション問題	シミュレーション問題
17	後期試験期間	-

備考

-

科目	ネットワーク構築演習 I	分類	専門科目
担当	野本 修平		
テキスト (出版社)	徹底攻略Cisco CCNA/CCENT ICND1編、ICND2編(インプレス) 本校のオリジナルテキスト		
参考資料	各授業内でプリントを配布		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要		
Cisco社が提供しているシミュレータソフト(Packet Tracer)を利用し、L2、L3レベルでの簡単なネットワークの構築、およびトラブルシューティングを行う。		
2. 授業の目標(検定取得など)		
CCENTに合格できるレベルのネットワーク構築、トラブルシューティングが行える技術習得を目指す。		
3. 注意点・要望		
エンジニアとしての素養をつける良いタイミングだと思いますので、自分一人で「なぜ？」を繰り返しながら対応を進めること。人に聞くだけでは力はつきません。		
4. 関連科目		
シスコネットワークング演習 I、シスコネットワークング演習 II、ネットワーク構築演習 II		
週	テーマ	内容
1	ガイダンスとシミュレータソフトの紹介	授業の意義、評価方法、その他カリキュラム等の説明 シミュレータソフトの利用方法等の説明
2	NWの知識振り返り	IPアドレス計算、ルーティングに関する復習の為基礎テストを実施
3	シミュレータソフト操作方法 コマンドの習得	シミュレータソフトの操作方法を説明 NWの疎通確認、設定確認コマンドについて(ICMP、showコマンド)
4	スタティックルート	スタティックルートを利用したNWの構築 設定確認コマンドについて
5	ダイナミックルート	ルーティングプロトコル(RIPv2)を利用したNWの構築 設定確認コマンドについて
6	showコマンド	showコマンドからの読み取り、運用系コマンドについて(copy 等)
7	パスワード設定	ネットワーク機器上でのパスワード設定 リモート接続時の注意点等
8	デフォルトルート	デフォルトルート等を用いたNWの構築
9	アクセスリスト	アクセスリストの仕組み、設定を実施 トラブルシューティングの実施
10	NAT	NATの設定、確認 各種showコマンドからの読み取り
11	DHCP	DHCPサーバ、クライアントの設定、確認 各種showコマンドからの読み取り
12	NTP	NTPサーバ、クライアントの設定確認 各種showコマンドからの読み取り
13	VLAN	VLANを利用したネットワーク構築
14	CCENT対策	CCENT対策用の実習課題の実施(総合問題)
15	前期試験期間	-
備考	IT業界でインフラ系のPMを経験した教員がネットワークに関する講義を行う。	

科目	ネットワーク構築演習Ⅱ	分類	専門科目
担当	野本 修平		
テキスト (出版社)	徹底攻略Cisco CCNA/CCENT ICND1編、ICND2編(インプレス) 本校のオリジナルテキスト		
参考資料	各授業内でプリントを配布		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

Cisco社が提供しているシミュレータソフト(PacketTracer)を利用し、L2、L3レベルでの簡単なネットワークの構築、およびトラブルシューティングを行う。また、後半では各種シナリオを用意し、実際のNW提案に関するグループワークを行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

企業内ネットワーク管理者としての基礎知識をつける。また運用を意識したネットワーク構築の基礎を学ぶ。

3. 注意点・要望

CCENT取得者レベルの技術知識を要するので、しっかり前期の内容を復習しておくこと。

4. 関連科目

シスコネットワーク演習Ⅰ、シスコネットワーク演習Ⅱ、ネットワーク構築演習Ⅰ

週	テーマ	内容
1	前期講座の復習	前期演習内容の振り返りを踏まえたトラブルシューティングを実施
2	CCNA対策(1)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(VTP)
3	CCNA対策(2)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(VLAN)
4	CCNA対策(3)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(ポートセキュリティ)
5	CCNA対策(4)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(L3スイッチ)
6	CCNA対策(5)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(OSPF)
7	CCNA対策(6)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(EIGRP)
8	CCNA対策(7)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(拡張ACL)
9	CCNA対策(8)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(NAT)
10	CCNA対策(9)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(L3スイッチを利用したルーティング)
11	CCNA対策(10)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(L3スイッチとルータを利用したルーティング)
12	CCNA対策(11)	CCNA試験内容に準じたNW構築、トラブルシューティング(複合総合問題と新出題傾向)
13	ネットワーク提案シミュレーション(1)	各チームに分かれてのグループワーク(体制図と役割分担)
14	ネットワーク提案シミュレーション(2)	各チームに分かれてのグループワーク(提案方針の策定)
15	ネットワーク提案シミュレーション(3)	各チームに分かれてのグループワーク(NW構成図の作成)
16	ネットワーク提案シミュレーション(4)	各チームに分かれてのグループワーク(発注側、受注側を意識したSHOWの作成)
17	後期試験期間	-

備考

IT業界でインフラ系のPMを経験した教員がネットワークに関する講義を行う。

科目	オブジェクト指向プログラミング演習	分類	専門科目
担当	川島 慧		
テキスト (出版社)	スッキリわかる Java入門 実践編 第2版 (インプレス)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	50%	0%	20%	20%	0%	10%	100%		

1. 授業の概要

Java言語の重要概念である「オブジェクト指向」の基礎を徹底的に勉強する。
Javaプログラミングの実践的な知識を学び、アプリケーション開発の基礎を身に付ける。

2. 授業の目標(検定取得など)

問題解決にあたって、アルゴリズムから実装まで一貫して行える力を養う。
Java Bronze、Java Silver受験に対応できる知識・スキルも身に付ける。

3. 注意点・要望

積み上げによる学習が大事なため、基礎をおろそかにせず、一つひとつの技術を確実に身に付けること。
自らの手でプログラムを組み、頭だけでなく体で技術を身に付けること。

4. 関連科目

Web技術演習Ⅰ、Web技術演習Ⅱ、サーバサイドプログラミング演習

週	テーマ	内容
1	オリエンテーション インタフェース(1)	授業の目標、進め方及び評価方法の理解 インタフェースの概要、利点、実装方法
2	インタフェース(2)	インタフェースに関する課題提出
3	ポリモーフィズム(1)	ポリモーフィズムの概要、利点、実装方法
4	ポリモーフィズム(2)	ポリモーフィズムに関する課題提出
5	中間課題(1)	オブジェクト指向全般に関する課題提出
6	中間課題(2)	コンソールRPGゲームの作成
7	中間課題(3)	コンソールRPGゲームの作成
8	例外処理	例外処理の概要、利点、実装方法
9	コレクション	コレクション(ArrayListクラス)の概要、利点、実装方法
10	ファイル入出力(1)	ファイル入出力の概要、シリアライゼーションとオブジェクトの保存方法
11	ファイル入出力(2)	ファイルとフォルダの連動方法
12	インナークラス(1)	内部クラス、外部クラスの概要、利点、実装方法
13	インナークラス(2)	ラムダ式の概要、利点、実装方法
14	GUIアプリケーション	JavaFXの概要、利点、実装方法
15	前期試験期間	効果測定

備考

-

科目	サーバサイドプログラミング演習	分類	専門科目
担当	川島 慧		
テキスト (出版社)	スッキリわかる サーブレット&JSP入門 第2版 (インプレス)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	50%	0%	20%	20%	0%	10%	100%		

1. 授業の概要

サーブレット/JSPを用いたWebアプリケーションを構築する技術を身に付ける。
データベースと連携して動くWebアプリケーションをスクラッチ開発できる知識・スキルを身に付ける。

2. 授業の目標(検定取得など)

Webアプリケーションを開発する知識・技術を習得し、エンジニアとしての能力向上を目指す。

3. 注意点・要望

とにかく考えながら手を動かしてもらうため、エラーが出て焦らず修正し完成させること。
これまで勉強したJavaの基礎文法、オブジェクト指向の内容はしっかり復習し、理解しておくこと。

4. 関連科目

Web技術演習Ⅰ、Web技術演習Ⅱ、オブジェクト指向プログラミング演習

週	テーマ	内容
1	オリエンテーション サーブレット基礎(1)	授業の目標、進め方及び評価方法の理解 サーブレットの概要、利点、実装方法
2	サーブレット基礎(2)	サーブレットの基礎技術に関する課題提出
3	JSP基礎(1)	JSPの概要、利点、実装方法
4	JSP基礎(2)	フォーム(入力パラメータの取得)の概要、利点、実装方法
5	JSP基礎(3)	JSPの基礎技術(フォーム含む)に関する課題提出
6	MVCモデル	MVCモデルの概要、利点、実装方法
7	セッションスコープ	セッションスコープの概要、利点、実装方法
8	リクエストスコープ	リクエストスコープの概要、利点、実装方法
9	アプリケーションスコープ	アプリケーションスコープの概要、利点、実装方法
10	MVCモデルと各スコープの連携(1)	MVCモデルの考え方を取り入れ、スコープ(セッション、リクエスト、アプリケーション) 要素を盛り込んだ問題演習
11	MVCモデルと各スコープの連携(2)	MVCモデルの考え方を取り入れ、スコープ(セッション、リクエスト、アプリケーション) 要素を盛り込んだ問題演習
12	中間課題(1)	一言つぶやきアプリの作成
13	中間課題(2)	一言つぶやきアプリの作成
14	データベース連携(1)	JSP、サーブレット、DBの連携方法
15	データベース連携(2)	JSP、サーブレット、DBの連携方法
16	中間課題(3)	一言つぶやきアプリの修正
17	後期試験期間	効果測定

備考

-

科目	Web技術演習 I	分類	専門科目
担当	橘 純平		
テキスト (出版社)	いちばんよくわかるHTML&CSS3デザイン (SB Creative)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	30%	0%	30%	10%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要		
Webの概要と構築に必要なHTML及びCSS技術を学習する。		
2. 授業の目標(検定取得など)		
HTML、CSSの基礎を扱うことができるようになる。 Webデザイン・構築が一人のできるようになる。		
3. 注意点・要望		
毎時間、新しい技術を学習するため、欠席をしないこと。		
4. 関連科目		
サーバーサイドプログラミング演習		
週	テーマ	内容
1	オリエンテーション Webサイトの仕組みを知る	Webサイトが表示される仕組み、URL、Webサイトに使われるファイルの種類 Webサイトのファイル・フォルダ構造、Webサイトの制作環境を整える
2	HTMLの基礎知識とマークアップ	HTMLとは、HTMLの書式、HTMLドキュメントの構造、マークアップの考え方
3	CSSの基礎知識とページデザイン	CSSの基礎知識、CSSの書式、ページにCSSを適用する
4	テキストの装飾(1)	見出しや本文のフォントサイズの調整、読みやすい行間、 段落のテキストをリード文だけ太字にする、表示するフォントを設定する
5	テキストの装飾(2)	テキストの行揃えを変更する、2行目以降を1文字下げる テキスト色を変更する、見出しにサブタイトルをつける
6	リンクの設定と画像の表示	テキストにリンクを設定する、テキストリンクにCSSを適用する 画像を表示する、画像にリンクをつける、画像にテキストを回り込ませる
7	ボックスと情報の整理(1)	インラインボックスとブロックボックス、箇条書きのマークアップ リストを情報の整理に使う、上手な<DIV>の使い方
8	ボックスと情報の整理(2)	CSSのボックスモデル、パディング、ボーダーの設定 2つ以上のボックスを並べる、ボックスのデザインを調整する
9	テーブル	テーブルを作成する、アクセシビリティを考慮したテーブル テーブルのデザインバリエーション
10	フォーム	フォームとデータを送受信する仕組み、さまざまなフォーム部品 標準的なフォームの例
11	ページ全体のレイアウトとナビゲーション	実践的なコーディングのために知っておきたいCSSの知識、シングルコラムレイアウト、 フレックスボックスを使ったコラムレイアウト、ナビゲーションメニューの作成
12	レスポンシブWebデザイン	レスポンシブWebデザインとは、レスポンシブWebデザインのサイトを作る
13	最終課題作成(1)	授業で学習した技術を使い課題に取り組む
14	最終課題作成(2)	授業で学習した技術を使い課題に取り組む
15	前期定期試験	効果測定
備考	-	

科目	Web技術演習Ⅱ	分類	専門科目
担当	橘 純平		
テキスト (出版社)	いちばんよくわかるWebデザインの基本 (SB Creative)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	30%	0%	30%	10%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要

実例のWebサイトの解説をし、基礎から実践的なテクニックを学習する。

2. 授業の目標(検定取得など)

デザインの基礎からWebに関する技術を身に付ける。
Webデザイン・構築が一人で行えるようになる。

3. 注意点・要望

毎時間、新しい技術を学習するため、欠席をしないこと。

4. 関連科目

サーバーサイドプログラミング演習

週	テーマ	内容
1	オリエンテーション Webデザインの基本	デザインとは、目標と目的を考える、ターゲットを想定する、コンセプトを決める、ワイヤーフレームやプロトタイプをつくる
2	レイアウト(1)	レイアウトとは、レイアウトの原則、Webデザインにおけるレイアウト Webデザインにおけるナビゲーションのレイアウト
3	レイアウト(2)	レイアウトにおける視線誘導、タッチデバイス向けのレイアウト レスポンスWebデザイン
4	配色(1)	色とは、色の3属性、トーン、補色・類似色・配色の調和
5	配色(2)	色の印象、カラーモード、利用者の視点に立った配色 Webサイトの目的にあった配色と比率、リンクの色の扱い
6	写真と図版	Webデザインにおける写真・図版、色調補正、写真のトリミング 解像度・ピクセルについて、画像のファイル形式
7	タイポグラフィ(1)	書体とは、欧文書体と和文書体、書体ファミリー、書体の選び方、本文の組版
8	タイポグラフィ(2)	文字コードとブラウザの表示、最適なfont-family、Webフォントについて Webフォントのサービスの紹介、Webフォントの使い方
9	インタラクション(1)	インタラクションデザインとは、インタラクションデザインの基本 マイクロインタラクションとは
10	インタラクション(2)	CSSを使ったインタラクション、JavaScriptとは、動きのあるサイトを作る時の注意点、 SVGやWebGLを使ったインタラクションデザイン
11	運用とマーケティング(1)	テスト環境と本番環境、公開前後のチェック作業、Webマーケティングの全体像 インターネット広告の種類、リスティング広告、ランディングページ最適化
12	運用とマーケティング(2)	検索エンジン最適化、ソーシャルメディアマーケティング、Googleアナリティクス Google Serche Consoleとタグマネージャ、Webサイトの改善策
13	最終課題作成(1)	授業で学習した技術を使い課題に取り組む
14	最終課題作成(2)	授業で学習した技術を使い課題に取り組む
15	最終課題作成(3)	授業で学習した技術を使い課題に取り組む
16	最終課題作成(4)	授業で学習した技術を使い課題に取り組む
17	後期定期試験	効果測定

備考	-
----	---

科目	検定対策応用 I	分類	専門科目
担当	野本 修平・石神 和也		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	6
	0%	50%	0%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要		
各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。		
2. 授業の目標(検定取得など)		
各自が定める検定の取得		
3. 注意点・要望		
目標だけ定めて取り掛からないことは原則認めません。しっかりと自分に必要となる学習を進めること。		
4. 関連科目		
IT系科目全般		
週	テーマ	内容
1	目標設定	各自が将来的に必要となる資格を決め、目標設定のためのレポートを作成する
2	面談(1) 検定に向けた学習(1)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う 各自が決めた検定に向けての学習
3	面談(2) 検定に向けた学習(2)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う 各自が決めた検定に向けての学習
4	面談(3) 検定に向けた学習(3)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う 各自が決めた検定に向けての学習
5	効果測定(1)	取り決めた目標と実態とのギャップの振り返り レポート作成
6	面談(4) 検定に向けた学習(4)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う 各自が決めた検定に向けての学習
7	面談(5) 検定に向けた学習(5)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う 各自が決めた検定に向けての学習
8	面談(6) 検定に向けた学習(6)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う 各自が決めた検定に向けての学習
9	効果測定(2)	取り決めた目標と実態とのギャップの振り返り レポート作成
10	面談(7) 検定に向けた学習(7)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う 各自が決めた検定に向けての学習
11	面談(8) 検定に向けた学習(8)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う 各自が決めた検定に向けての学習
12	面談(9) 検定に向けた学習(9)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う 各自が決めた検定に向けての学習
13	面談(10) 検定に向けた学習(10)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う 各自が決めた検定に向けての学習
14	効果測定(3)	取り決めた目標と実態とのギャップの振り返り レポート作成
15	前期試験期間	-
備考	-	

科目	検定対策応用Ⅱ	分類	専門科目
担当	野本 修平・石神 和也		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	6
	0%	50%	0%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

各自が定める検定の取得

3. 注意点・要望

目標だけ定めて取り掛からないことは原則認めません。しっかりと自分に必要となる学習を進めること。

4. 関連科目

IT系科目全般

週	テーマ	内容
1	目標設定	各自が将来的に必要な資格を決め、目標設定のためのレポートを作成する
2	面談(1) 検定に向けた学習(1)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う 各自が決めた検定に向けての学習
3	面談(2) 検定に向けた学習(2)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う 各自が決めた検定に向けての学習
4	面談(3) 検定に向けた学習(3)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う 各自が決めた検定に向けての学習
5	効果測定(1)	取り決めた目標と実態とのギャップの振り返り レポート作成
6	面談(4) 検定に向けた学習(4)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う 各自が決めた検定に向けての学習
7	面談(5) 検定に向けた学習(5)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う 各自が決めた検定に向けての学習
8	面談(6) 検定に向けた学習(6)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う 各自が決めた検定に向けての学習
9	効果測定(2)	取り決めた目標と実態とのギャップの振り返り レポート作成
10	面談(7) 検定に向けた学習(7)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う 各自が決めた検定に向けての学習
11	面談(8) 検定に向けた学習(8)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う 各自が決めた検定に向けての学習
12	面談(9) 検定に向けた学習(9)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う 各自が決めた検定に向けての学習
13	面談(10) 検定に向けた学習(10)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う 各自が決めた検定に向けての学習
14	面談(11) 検定に向けた学習(11)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う 各自が決めた検定に向けての学習
15	面談(12) 検定に向けた学習(12)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う 各自が決めた検定に向けての学習
16	効果測定(3)	取り決めた目標と実態とのギャップの振り返り
17	後期試験期間	-

備考	-
----	---

科目	情報セキュリティ応用 I	分類	選択科目
担当	森田 秀明		
テキスト (出版社)	オリジナル教材		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	0%	50%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要		
情報処理安全確保支援士ならびに応用情報技術者試験のセキュリティ分野を念頭に置き、基礎知識と解答技術を身に付ける。 講義→演習問題→演習問題について全員で検討・解説という形で進行する。演習問題を範囲とした確認テスト(中間・学期末)を行う。		
2. 授業の目標(検定取得など)		
情報処理安全確保支援士の午後Ⅰ・午後Ⅱ問題に自力で取り組めるだけの基礎知識・解答力を身に付ける。 応用情報技術者試験の午後問題(セキュリティ分野)で高得点を取れるだけの実力を身に付ける。		
3. 注意点・要望		
演習問題は模範解答を覚えても力がつきません。必ず自分の頭で考え、正解できなくても良いので自分の言葉で答えを書くこと(空欄・無回答を作らない)。演習問題の検討(ディスカッション)では積極的に自分の考えを発言し、疑問があればその場で質問して下さい。		
4. 関連科目		
-		
週	テーマ	内容
1	ガイダンス、ネットワークの基礎知識	この教科について、情報処理安全確保支援士の試験制度、学習方法 ポート番号、NAPT
2	情報セキュリティの概念 情報セキュリティ関連機関・法規	情報セキュリティの3要素、リスクマネジメント、BCP(事業継続計画) 情報セキュリティ関連機関、CVSS、情報処理関連法規(特に不正競争防止法)
3	脅威(1)	マルウェアの種類、攻撃ツール、C&Cサーバとコネクトバック通信、マルウェア感染時の初動対応
4	脅威(2)	マルウェア対策ソフト、マルウェアの特徴の把握、中間者攻撃、標的型攻撃、 ドライブバイダウンロード攻撃・Dos攻撃などその他の攻撃手法
5	脆弱性対策	脆弱性診断、ゼロデイ攻撃、脆弱性修正プログラムの適用
6	暗号化(1)	共通鍵暗号と公開鍵暗号、危殆化、伝統的暗号アルゴリズム、暗号アルゴリズム、暗号 解読法、暗号アルゴリズムの安全性
7	暗号化(2)	ブロック暗号アルゴリズム、ハッシュ関数、レインボー攻撃とソルトの役割
8	無線LAN	無線LANの基礎、無線LANのセキュリティ
9	PKI(1)	PKIの構成要素、デジタル証明書のフォーマット、クライアント証明書 サーバ証明書、ドメイン認証証明書、EV証明書
10	PKI(2) 中間確認テスト	PKIの動作、デジタル署名の検証、証明書の失効、ルート認証局 コモンネームの検証、SSL/TLS、HSTS、中間確認テスト
11	認証とアクセスコントロール(1)	識別・認証・認可、アクセス権付与の原則、特権ID、アカウントの適切な管理、LDAP
12	認証とアクセスコントロール(2)	パスワードクラッキング、パスワード管理の留意点(利用者・管理者) ワンタイムパスワード、クライアント証明書による認証、RADIUS、リスクベース認証
13	認証とアクセスコントロール(3)	Kerberos認証、バイオメトリクス認証、SSOとは、SAML
14	時刻認証 VPN	時刻認証の基礎知識、デジタル署名方式、タイムアーカイビング方式、タイムスタンプ の有効期限と長期保存、プライベートネットワークとは、NPNとは、IPsec、SSH
15	前期試験期間	-
備考	通信キャリアでネットワークエンジニアとして勤務していた教員が、セキュリティ技術について講義する。	

科目	情報セキュリティ応用Ⅱ	分類	選択科目
担当	森田 秀明		
テキスト (出版社)	オリジナル教材		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	0%	50%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

情報処理安全確保支援士ならびに応用情報技術者試験のセキュリティ分野を念頭に置き、基礎知識と解答技術を身に付ける。
講義→演習問題→演習問題について全員で検討・解説という形で進行する。演習問題を範囲とした確認テスト(中間・学期末)を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

情報処理安全確保支援士の午後Ⅰ・午後Ⅱ問題に自力で取り組めるだけの基礎知識・解答力を身に付ける。応用情報技術者試験の午後問題(セキュリティ分野)で高得点を取れるだけの実力を身に付ける。

3. 注意点・要望

演習問題は模範解答を覚えても力がつきません。必ず自分の頭で考え、正解できなくても良いので自分の言葉で答えを書くこと(空欄・無回答を作らない)。演習問題の検討(ディスカッション)では積極的に自分の考えを発言し、疑問があればその場で質問して下さい。

4. 関連科目

情報セキュリティ応用Ⅰ

週	テーマ	内容
1	サーバセキュリティ(1)	サーバ全般のセキュリティ、Webサーバのセキュリティ、DNSサーバのセキュリティ、DNSキャッシュポイズニング攻撃、DNSリフレクション攻撃
2	サーバセキュリティ(2)	プロキシサーバのセキュリティ、リバースプロキシ
3	電子メールのセキュリティ	電子メールの構造、電子メールエージェント、電子メールプロトコル、オープンリレー防止、送信者認証、OP25B、送信ドメイン認証、ペイジアンフィルタリング、情報漏えい防止機能
4	ICカード・クレジットカード	ICカードに対する脅威と要件、PINIによるホルダ認証、耐タンパ性、PCI DSS
5	セキュアプログラミング(1)	XSS(格納型、反射型、DOMベース)、XSSの脆弱性診断方法、サニタイジング
6	セキュアプログラミング(2)	SQLインジェクション、バッファオーバーフロー、クロスサイトリクエストフォージェリその他の攻撃手法
7	物理セキュリティ 中間確認テスト	入退室管理、ネットワークケーブルの保護 中間確認テスト
8	ログ	ログ管理の要点、ログ取得の目的、ログ管理の留意点、複数機器にまたがるログの分析、Syslog、HTTPアクセスのステータスコード
9	インシデント対応	インシデント対応手順、CSIRT、秘密鍵が危殆化した際の対応
10	シンクライアント	シンクライアントの実現方法、VDI
11	モバイル環境	モバイル端末における持ち出し管理規定、BYOD、盗難・紛失時のリスクと対応 スマートフォン
12	運用管理	構成管理、クラウドの利用、デジタルフォレンジックス、内部不正対策
13	監査 外部委託を行う際のセキュリティ	監査の種類、監査の独立性 開発を外部委託する際の留意事項、保守を外部委託する際の留意事項
14	午後問題(1)	情報処理安全確保支援士過去問題の解答研究
15	午後問題(2)	情報処理安全確保支援士過去問題の解答研究
16	午後問題(3)	情報処理安全確保支援士過去問題の解答研究
17	後期試験期間	-

備考

通信キャリアでネットワークエンジニアとして勤務していた教員が、セキュリティ技術について講義する。

科目	Office総合演習 I	分類	選択科目
担当	佐藤 薫		
テキスト (出版社)	Excelビジネス活用ドリル2016対応 (日経BP社)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

ドリル形式の実践的な練習問題の演習を通して、ビジネス文書で使用する機能を習得し、Officeのスキルをアップさせる。

2. 授業の目標(検定取得など)

Word、Excel、PowerPointの基本機能を定着させる。

ビジネス文書の書き方やデータの活用術を習得し、さまざまな種類のビジネス文書を効率よく作成できるようにする。

3. 注意点・要望

テキストは必ず持参すること。

授業内で完成できなかった課題は、必ず仕上げて提出期限までに提出すること。

4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	計算機能(基礎)	計算機能の確認 売上日報 / 売上実績表 / 交通費精算書 / 時間帯別客単価
2	計算機能(応用)	仕入れ予定表 / 売上予算管理 / 売価算定表 / 新年度予算
3	ビジネス文書の基本(Word)	社外文書、社内文書のポイント 定型の案内書 / ビジネスや生活に役立つ文書 / 罫線を使った文書
4	計算機能(応用)	在庫管理表 / 損益分岐点 / 月間勤務表
5	集計機能(基礎)(1)	集計機能のポイント 在庫棚卸表 / 販売店別売上表 / 売上比較(クロス集計1)
6	集計機能(基礎)(2)	顧客別売上集計 / 全店経費集計表(統合1) / 研修会申込記録 / クロス集計2
7	表の応用(Word)	稟議書 / 送付案内 / 表内に表を作成する / 文字列を表にする
8	集計機能(応用)	売上日報 / 店舗別売上集計(統合2) / 贈答品売上集計(クロス集計3)
9	グラフ作成(基礎)	さまざまなグラフ作成 売上高推移 / 問い合わせ件数推移 / 構成比率 / 分野別売上集計
10	グラフ作成(応用)	予測値グラフ / ヒストグラム / パレート図
11	レイアウトを工夫した文書(Word)	レイアウト機能のポイント 段組み、ドロップキャップ、ページ罫線を使った文書
12	データベース	データベースの正規化 社員名簿 / 宿泊施設一覧 / 売上台帳 / 売上分析 / 調査分析
13	ビジュアルな文書(Word)	図形の編集 / テキストボックスを利用した文書 / スクリーンショットの活用
14	プレゼンテーション(PowerPoint)	コンテンツの作成 / ヘッダーフッター / スライドマスターの活用
15	前期試験期間	-

備考

-

科目	Office総合演習Ⅱ	分類	選択科目
担当	佐藤 薫		
テキスト (出版社)	よくわかるWord2016&Excel2016スキルアップ問題集ビジネス実践編(FOM出版) Excelビジネス活用ドリル2016対応(日経BP社) ※前期から引き続き使用		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

前期に習得した内容を基に、さらに発展問題を演習し、実務に直結するOfficeのスキルを身に付ける。

2. 授業の目標(検定取得など)

機能を応用したり、組み合わせたりして文書を作成できる活用能力を身に付ける。
ビジネスシーンをイメージし、自ら考えて最適なビジネス文書を一から作成できるようにする。

3. 注意点・要望

テキストは必ず持参すること。
授業内で完成できなかった課題は、必ず仕上げて提出期限までに提出すること。

4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	自動化の機能	自動化のポイント 受注一覧 / 発注一覧 / 顧客満足度調査 / 出荷伝票 / 支払予定一覧
2	他のアプリケーションとの連携 (Word)(1)	差し込み印刷 / ケースラベル / はがき印刷
3	他のアプリケーションとの連携 (Word)(2)	テキストファイルのインポート / Excelグラフの取り込み / ハイパーリンクの挿入 / PDF文書の作成
4	プロジェクトの発足を通知する	体制図の作成 / プロジェクト発足を通知するレポート
5	会議の開催を連絡する	レポートの作成 / 会議配布資料の作成
6	行動指針を従業員に告知する	通知文の作成 / ポスターの作成
7	セミナー開催案内と受講票の作成	セミナー一覧の作成 / 案内レポートの作成 / 受講票への差し込み印刷
8	Webサイトアクセス数やイベントの売上実績を集計、分析する	アクセス数の集計 / アクセス数の分析
9	社員研修結果を管理する	成績の集計 / 個別分析
10	セミナー開催状況を管理する	マスター表、セミナー一覧表の作成 / セミナー別の集計
11	売上見込み、売上実績を集計する	売上見込みのレポートの作成 / 売上見込みの集計 / 売上実績の集計
12	総合演習	演習
13	DTP機能の活用	テンプレートの作成 / ヘッダーフッター機能
14	アウトライン機能	スタイルの利用 / アウトライン / 目次作成
15	マクロ	マクロの記録、実行 / VBAの確認 / ボタンへの登録
16	マクロの活用	会議室予約 / 売上ベスト自動抽出 / 見積書 / 納品書 / 請求書
17	後期試験期間	-

備考

-

科目	マルチメディア基礎 I	分類	選択科目
担当	正木 義男		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	授業用に開発したWebアプリとインターネットで利用可能なオンラインWeb教材を使用		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	0%	70%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要		
マルチメディア(文字、画像、音声、映像)をWebで扱うための技術の基本を学ぶ。 フロントエンド処理を主体とした処理には欠かせないAjaxについても理解する。		
2. 授業の目標(検定取得など)		
マルチメディアのデータの表示・転送をWeb技術(HTML5、PHP)を用いて処理できる。 英語のインターネット学習サイトの利用に慣れる。		
3. 注意点・要望		
授業用Webアプリとインターネット教材(英語)を使用する。 授業のなかで理解度チェックの試験を実施し成績評価に利用する。		
4. 関連科目		
-		
週	テーマ	内容
1	授業の進め方と学習環境構築	Webアプリの内容と操作方法説明、学習用Web環境(XAMPP)導入、Webの仕組み
2	英語サイト HTML5	エレメント・タグ・アトリビュート、マルチメディア関連エレメント(img/audio/video)
3	英語サイト CSS3	セレクタ・プロパティ、レイアウト(レスポンス)
4	英語サイト JavaScript(1)	変数、配列、オブジェクト、関数、JSON
5	英語サイト JavaScript(2)	DOM操作
6	英語サイト PHP	変数、配列、関数、JSON
7	英語サイト JavaScript(3)	Ajax(XMLHttpRequest)
8	演習 Webサーバへのリクエスト	バックエンド主体の処理(同期処理)とフロントエンド主体の処理(非同期処理)
9	演習 Webサーバへの非同期リクエスト(1)	サーバからAjaxを使用してマルチメディアファイルのダウンロード&表示
10	演習 Webサーバへの非同期リクエスト(2)	サーバからAjaxを使用してマルチメディアファイルのダウンロード&表示
11	演習 ローカルファイルの表示(1)	HTML InputタグのファイルアップロードとFile API利用 (テキスト・画像・音声・映像ファイル)
12	演習 ローカルファイルの表示(2)	HTML Drag and Drop APIとFile API利用(テキスト・画像・音声・映像ファイル)
13	演習 Webサーバへの非同期リクエスト(3)	Ajaxを使用してマルチメディアファイルのアップロード
14	演習 Webサーバへの非同期リクエスト(4)	Ajaxを使用してマルチメディアファイルのアップロード
15	前期試験期間	-
備考	-	

科目	マルチメディア基礎Ⅱ	分類	選択科目
担当	正木 義男		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	授業用に開発したWebアプリとインターネットで利用可能なオンラインWeb教材を使用		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	0%	70%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要
マルチメディア(文字、画像、音声、映像)をWebで扱うための技術の基本を学ぶ。
2. 授業の目標(検定取得など)
マルチメディアのデータの編集・転送をWeb APIを用いて処理できる。
3. 注意点・要望
-
4. 関連科目
-

週	テーマ	内容
1	Web API	HTML5 API と サードパーティAPI
2	HTML5 API (1)	データ取得用API Ajax(XMLHttpRequest/Fetch)
3	HTML5 API (2)	画像用API Canvas API
4	HTML5 API (3)	音声用API Web Audio API
5	HTML5 API (4)	映像ストリーム用API Media Capture and Streams API
6	HTML5 API (5)	音声合成&音声認識API Web Speech API
7	サードパーティAPI (1)	GoogleMap API
8	サードパーティAPI (2)	YouTube API
9	演習 映像ストリームの編集(1)	映像ストリーム切り取り、編集、保存
10	演習 映像ストリームの編集(2)	映像ストリーム切り取り、編集、保存
11	演習 画像の編集(1)	画像のアニメ化、映像保存
12	演習 画像の編集(2)	画像のアニメ化、映像保存
13	演習 音声の編集(1)	音声の編集、保存
14	演習 音声の編集(2)	音声の編集、保存
15	演習予備(1)	マルチメディア演習
16	演習予備(2)	マルチメディア演習
17	後期試験期間	-

備考	-
----	---

科目	就職講座B応用	分類	教養科目
担当	花田 秀宣		
テキスト (出版社)	求められる人材になるための社会人基礎力講座 第2版(日経BP社) ひらく社会人基礎力診断テスト120		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	70%	0%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要		
社会人基礎力は「3つの能力」と「12の能力要素」で構成されており、それぞれの能力と能力要素について理解し、社会人としての基礎力の重要性と活用の仕方を身に付ける。		
2. 授業の目標(検定取得など)		
社会人基礎力をしっかり理解・習得する事で「仕事をする人」から「仕事ができる人」へと自己変革ができるため、授業では、「12の能力要素」の成り立ちを、「12の素数」を基に深く学び理解する。		
3. 注意点・要望		
-		
4. 関連科目		
-		
週	テーマ	内容
1	社会人基礎力とは	「3つの能力」と「12の能力要素」と「12の素数」について 選択・決断・理由付けの大切さについて学ぶ
2	前に踏み出す力・主体性	「物事に進んで取り組む力」の理解と阻害要因の明確化 「主体性の能力要素」の詳細と12の素数との関連性から自己課題について学ぶ
3	前に踏み出す力・働きかけ力	「他人に働きかけ巻き込む力」の理解と阻害要因の明確化 「働きかけ力の能力要素」の詳細と12の素数との関連性から学ぶ
4	前に踏み出す力・実行力	「目的を制定し確実に行動する力」の理解と阻害要因の明確化 「実行力の能力要素」の詳細と12の素数との関連性から自己課題について学ぶ
5	考え抜く力・課題発見力	「現状を分析し、目的や課題を明らかにする力」の理解と阻害要因の明確化 「課題発見力の能力要素」の詳細と12の素数との関連性から学ぶ
6	考え抜く力・計画性	「課題に向けた解決プロセスを明らかにし、準備する力」の理解と阻害要因の明確化 「計画性の能力要素」の詳細と12の素数との関連性から自己課題について学ぶ
7	考え抜く力・創造力	「新しい価値を踏み出す力」の理解と阻害要因の明確化 「創造力の能力要素」の詳細と12の素数との関連性から自己課題について学ぶ
8	振り返り	前に踏み出す力と考え抜く力の6つの能力のまとめと振り返り
9	チームで働く力・発信力	「自分の意見を解りやすく伝える力」の理解と阻害要因の明確化 「発信力の能力要素」の詳細と12の素数との関連性から自己課題について学ぶ
10	チームで働く力・傾聴力	「相手の意見を丁寧に聴く力」の理解と阻害要因の明確化 「傾聴力の能力要素」の詳細と12の素数との関連性から自己課題について学ぶ
11	チームで働く力・柔軟性	「意見の違いや立場の違いを理解する力」の理解と阻害要因の明確化 「柔軟性の能力要素」の詳細と12の素数との関連性から自己課題について学ぶ
12	チームで働く力・状況把握力	「自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力」の理解と阻害要因の明確化 「状況把握力の能力要素」の詳細と12の素数との関連性から学ぶ
13	チームで働く力・規律性	「社会のルールや人との約束を守る力」の理解と阻害要因の明確化 「規律性の能力要素」の詳細と12の素数との関連性から自己課題について学ぶ
14	チームで働く力・ストレスコントロール力	「ストレスの発生源に対応する力」の理解と阻害要因の明確化 「ストレスコントロール力の能力要素」の詳細と12の素数との関連性から学ぶ
15	前期試験期間	-
備考	-	

科目	キャリアデザイン	分類	教養科目
担当	野本 修平		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	30%	0%	50%	0%	0%	20%	100%		

1. 授業の概要

- (1)実社会でのビジネスシーンを題材に、どうすれば社会が求めるビジネスパーソンになれるのかを学習する。
(2)高いレベルで物事を考えられるビジネスパーソンを目指す。

2. 授業の目標(検定取得など)

- (1)社会人1年目に、周囲より頭一つ抜けた実務的な議事録スキルを身に身に付けること。
(2)社会人2年目以降についても1年目に意識したことを継続し、よりよい人生を送れるようにすること。

3. 注意点・要望

本授業は課題提出などについてはすべてメールで実施する。

4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンス 成績評価について
2	ビジネスメール	実践向けメールの使い方
3	目指すべくビジネスパーソン	目標を定め、自分の将来像を描写
4	仕事が早くなるツール(1)	紙とペンの有用性
5	仕事が早くなるツール(2)	コミュニケーションの前のコミュニケーション
6	仕事が早くなるツール(3)	シチュエーションを意識したコミュニケーション
7	仕事が早くなるツール(4)	作業における優先順位
8	仕事が早くなるツール(5)	議事録の作成とレビュー
9	IT業界を知る(1)	IT業界の契約方法と働き方
10	ビジネスシーンでの立ち振る舞い(1)	第一印象で評価は決まる
11	ビジネスシーンでの立ち振る舞い(2)	仕事の役割分担、責任範囲
12	IT業界を知る(2)	IT業界(Sier)の企業を解説
13	モチベーションコントロール	言葉、環境による様々なコントロール方法
14	メンタルコントロール	IT業界で必要となるメンタル
15	働く意味を考える	自分がHAPPYになる仕事の選び方
16	責任分界点	自信の行動指針と仕事での責任分界点
17	後期試験期間	効果測定

備考

IT業界にてプロジェクトリーダーを5年以上経験する教員が講義を行う

科目	やってみなはれ演習応用 I	分類	教養科目
担当	野本 修平		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要		
様々な学校行事を題材に社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。		
2. 授業の目標(検定取得など)		
リーダー・フォロワー、提案、許容、協調などの資質向上を図る。		
3. 注意点・要望		
「モメていない」=真剣ではない証拠、「失敗していない」=チャレンジしていない証拠、 社会に出る前に真の協調性を学んでほしい。		
4. 関連科目		
ビジネス関連科目全て		
週	テーマ	内容
1	やってみなはれ演習の意義	授業ガイダンス(評価方法、授業構成) 各行事に対する役割分担、責任分界点を意識した行動の指針を立てる
2	役割分担	体育祭に向けた事前準備 (それぞれの役割分担、目標設定)
3	国家試験後の目標設定	国家試験後の各自の半年間の目標、レポート作成
4	問題意識(1)	各グループに分かれ、日常を題材としての問題提起を行う
5	問題意識(2)	各グループに分かれ、日常を題材としての問題提起を行う
6	論点整理と解決案(1)	各グループが考える問題についての論点整理を行う 論点が整理できた状態であれば解決案の検討を行う
7	論点整理と解決案(2)	各グループが考える問題についての論点整理を行う 論点が整理できた状態であれば解決案の検討を行う
8	論点整理と解決案(3)	各グループが考える問題についての論点整理を行う 論点が整理できた状態であれば解決案の検討を行う
9	論理的思考(1)	論理的に各グループが考える問題に対する解決策を発表する
10	論理的思考(2)	論理的に各グループが考える問題に対する解決策を発表する
11	論理的思考(3)	論理的に各グループが考える問題に対する解決策を発表する
12	論理的思考(4)	論理的に各グループが考える問題に対する解決策を発表する
13	論理的思考(5)	論理的に各グループが考える問題に対する解決策を発表する
14	論理的思考(6)	論理的に各グループが考える問題に対する解決策を発表する
15	前期試験期間	-
備考	IT業界にてプロジェクトリーダーを5年以上経験する教員が講義を行う	

科目	やってみなはれ演習応用Ⅱ	分類	教養科目
担当	野本 修平		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要		
様々な学校行事を題材に社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。		
2. 授業の目標(検定取得など)		
リーダー・フォロワー、提案、許容、協調などの資質向上を図る。		
3. 注意点・要望		
「モメていない」=真剣ではない証拠、「失敗していない」=チャレンジしていない証拠、 社会に出る前に真の協調性を学んでほしい。		
4. 関連科目		
ビジネス関連科目全て		
週	テーマ	内容
1	後期演習内容ガイダンス	後期の行事、並びに就職活動を意識した活動計画の立案
2	能力の実践(1)	文化祭に向けた状況整理と今後のスケジュールすり合わせ
3	能力の実践(2)	各セクションに分かれて活動
4	能力の実践(3)	各セクションに分かれて活動
5	活動内容の評価(1)	活動内容の棚卸および評価
6	能力の実践(4)	各セクションに分かれて活動
7	能力の実践(5)	最終的な各セクションのすり合わせ
8	能力の実践(6)	各セクションに分かれて活動
9	活動内容の評価(2)	活動内容の棚卸および評価
10	社会人基礎力の向上(1)	自己啓発本の選定と購入
11	社会人基礎力の向上(2)	自己啓発本の読書
12	社会人基礎力の向上(3)	自己啓発本の読書
13	社会人基礎力の向上(4)	自己啓発本の読書
14	社会人基礎力の向上(5)	就職活動にむけてのアクション設定
15	社会人基礎力の向上(6)	就職活動にむけてのアクション設定
16	社会人基礎力の向上(7)	3年次における各自活動計画の取り決め
17	後期試験期間	-

備考	IT業界にてプロジェクトリーダーを5年以上経験する教員が講義を行う
----	-----------------------------------

